Q22：経尿道的手術時の中止薬(凝固系)について、胃カメラ時のように決め事があると理解しやすいのですが、何かあるでしょうか。

A：施設毎に決め事はあるはずですが、最終的に主治医が個々の症例に応じて判断します。

解説：経尿道的手術といっても膀胱腫瘍に対する手術や前立腺肥大に対する手術、尿路結石に対する手術などその種類は多岐にわたりますし、例えば切除する腫瘍の大きさなどでも出血の危険性は変化するため、休薬するかどうかも含めて定型的には決められません。当院では主な薬剤について休薬期間にある程度の基準[1,2,3]を決めていますが、そもそも薬を休薬するか否かや休薬するならどのくらいの期間かについては主治医が手術の出血リスクや休薬による血栓形成リスクを総合的に評価して判断します。また、エビデンスは乏しいですが、休薬するリスクが高い患者さんに対しては内服を中止する代わりにヘパリンの点滴を行う事もあります。いずれにせよ抗凝固薬・抗血小板薬は大事な薬ですから安易に中止は出来ません。休薬する場合には必ず事前に処方元の先生に問い合わせて患者さんと相談するようにしています。

表：代表的な薬剤の休薬期間の目安

抗凝固薬	休薬期間(目安)
ワーファリン	4-5 日
プラザキサ	1-4 日
イグザレルト、リクシアナ	1 日
エリキュース	1-2 日
抗血小板薬	
バイアスピリン、バファリン	7 日
パナルジン	10-14 日
プラビックス、コンプラビン、エイフェント	14 日
ロトリガ、エパデール	7-10 日
プレタール	3-4 日
プロサイリン	1 日
アンプラーグ	1-2 日
血管拡張薬(商品名)	
プロレナール	1 日
ペルサンチン、アンギナール	1-2 日

1）岩手医大医療安全推進室編．医療安全対策マニュアル第 13 版．岩手医科大学,2014,208-16.

2）堀正二ほか. 循環器疾患における抗凝固・抗血小板療法におけるガイドライン. 2008 年度合同研究班,2009,55-56.
3） 矢野正弘ほか. 周術期における抗血栓薬の使い方. 脳卒中 30,2008,967-73.